

企業で働く若手社員の方に、入社のカッカケや仕事のやりがい楽しさなどを聞きました。



おきなわ企業

Work Work 訪問



※1窯業―磁器や陶器を製造する業種。

Q1 入社のカッカケを教えてください（成尾さん）
 大阪出身で前職は広島のカフェで勤務していました。カフェで働くうちに器に興味を持ち始め、自分で作りたいと思うようになり、その後退職し、一年間愛知県瀬戸市にある陶芸の訓練学校に通いました。その学校で育陶園の求人を見つけ応募しました。

―全国の人の中で何故、沖縄を選んだ？

全国の似たりよったりの求人の中で、過去に先輩が育陶園に就職していたことや先生から勧められたこともありですが、近場でやるより全然知らない土地でやってみたいと思ったからです。そして、育陶園のウェブサイトをみた時に、器がおしゃれだなと商品に惹かれ、この技術を学べるのは面白そうだと感じました。

窯業（ようぎよう）※1と言えば、黙々と職人が作っているイメージでした。けれど育陶園はそうではなく、一人で作るというより、手作りの個人技ではあるけどそれをチームとしてつないで作品を作っていると感じました。こんなに大勢の方が働く

陶芸関係の仕事場はあまりないなと思いました。

知らない土地、知らない業界（異業種からの転職）なので不安だったけど、県外の方も受け入れており、SNSをみてどのような職場かわかりやすく、イメージがしやすく安心できました。

有限会社 育陶園

沖縄の那覇『壺屋』の地に300年続く壺屋焼の窯元。過去、今、これからの沖縄の景色をつくります。

<お話しを伺った方>

若手社員

- ・成尾さん（入社2年目）
担当：製造（ろくろ担当）
- ・富山さん（入社1年目）
担当：陶芸教室講師

先輩社員

- ・高安さん

Q2 お仕事の内容を教えてください

工房での仕事を担当しています。ろくろで器を作り、焼きのために窯詰めや窯出しを行います。また素焼きの後の器に釉薬（ゆうやく）※2をかけた後、最近では釉薬を作ることもさせてもらっており、今は全般的に関わって経験を積ませてもらっています。

一日の仕事の動きは窯詰や窯出しが週に何回かありますが、その際は午前中は窯詰や窯出し、釉薬をかける作業を行い、午後はろくろに入って器を作るといったような流れです。ろくろで製作する量は、商品によって異なりますが、一日で30〜40個程製作します。ただ、ろくろで器を作る以外にも窯に入れた後の乾燥や、削りなどその他の工程が多いので、全部の工程を終えた製品となると一週間で40〜50個程を製作します。

※2釉薬―水の浸み込みを防ぎ耐久性を上げ、デザインを施すもの。

―好きな仕事は？

完成品が出来上がる窯出しの時に達成感を感じます。規格が決まっている製品を作っているのも、手作りのので作り手の癖が出ます。僕はまだ技術力が足りないので自分で作った製品と先輩が作った製品とを見比べ、改善点を見つけて次につなげています。製品の規格基準に達していないものは二等品や訳アリ商品として販売しています。最初の頃と比べると、基準に達する製品が増えてきて嬉しいです。

―入職してどのくらいで製品を作り始めましたか？

最初はとりあえず作ってみてと言われ、何十個も作っていく中で基準内なのは「コレ大丈夫だね」と取ってもらいました。最初は「商品にして良いんですか!？」と驚きでした（笑）

半年ぐらいい一つずつ製品として販売できるかみてもらっていました。その後は徐々に任されるようになり、今はおおよそ製品として売り物になっています。ただ、今でも先輩の作品と見比べて、僅かな角度の違いで手の馴染みが違うのを感じます。作っているときは気付かず、仕上がって製品となったときに気付きます。僅か数ミリの世界だけどそれを表現できることが大切だと思います。お客さまからすると店頭に並んでいるものは、作り手が誰であれ製品としてみてくださるので緊張感を持って作っています。



企業で働く若手社員の方に、入社のキッカケや仕事のやりがい楽しさなどを聞きました。



—仕事をやる上で大切にしていることは？

やる上でひとそれぞれ個人差があるけれど、製品として規格が決まっているものを持っていくので、他の方が作っているものに近づけられるように、ミリ単位の世界ではあるけれど違いに気づいたものは修正をしていくことを大切にしています。規格ということで、他製品と均一になることに力を入れています。「誰が作ったかわからないね」と言われるようになることが目標ですね。言葉では教えてもらってわかっているけど、それを表現していくのはとても難しいです。最終的にはお客さまに喜んでもらえる物を作りたいと思っています。



—困難なところは？

体力面が大変です。暑くて寒い。粘土の乾燥が起こらないようにどうしても空調設備が限られています。夏はエアコンを入れず扇風機のみ、冬も暖房なしです。千二百度まで上がる窯が5メートル以内にあるので、夏は過酷ですが、冬は窯のおかげで暖かいです(笑) こういう世界だと分かって入ったけど、やっぱり大変ですね。

Q3 会社の魅力をきかせてください

チーム全体で良くしていこう、みんなで解決しようという経営陣だけでなく従業員みんなが意識をもって動いていると感じます。製造部門、体験部門、販売部門それぞれ部門ごとの連携や助け合いが、やらされているのではなく自発的に行っているところが良い会社だなと思います。

製造した商品を店舗に持っていくときなど普段から何気ない会話がが多く、会社主体のイベントなども年に何回かあり、普段からコミュニケーションを取っているのが、何か協力しなければならぬ時にすぐに動けます。人が優しく交流しやすいので、連携できる環境が作られているように感じます。

また、各部門でおきた問題は全体ミーティングで共有されるので、その問題に対して各部門で取り組めることはないかと考える体制もできています。組織としても連携する体制ができていくように感じます。

Q4 今後の目標を教えてください

自分の腕を磨いてお客さまに喜んでもらえるものが作れるようにしたいです。

僕は製造なので直接お客様が購入される姿をみることはないですが、店舗の方からお客様が欲しがっているものや喜ばれるものをきいたりします。作り手目線とお客様目線と両方の視点をもって、お客様の思いを反映できるような製品を作りたいと思っています。手にとってもらった時に、同じ柄だけど、「こっちの製品がなんか良いな」と無意識に選んでもらえるものが作りたいです。

この世界に入るまでは、器が好きで、器を選ぶとき結構見比べていました。そんな経験をしてきたからこそ、なんとなく選んでもらえるような製品を作りたいと思います。

Q5 就活中の方にメッセージをお願いします

最初は「楽しそうだな、面白そうだな」のきっかけだけで入ってみても良いと思います。やってみないとわからないし、自分でやってみて初めてわかることが多いです。少しでも楽しそう、面白そうという気持ちがあったら飛び込んでみるのも良いと思います。最初に思った好奇心を大切にしてください。



Q1 入社のキッカケを教えてください (富山さん)

昔からものづくりが好きで工業高校に進学しました。電子機械を学び卒業後に就職したのは製造業。その後訓練学校で建築関係を学び、県外の建築会社へ就職しました。しかしコロナ禍となり、沖縄へ帰ってくることを決意しました。沖縄で就職先を探すに当たり、ものづくりや物流業を探しました。デスクワークが苦手だったのでそれ以外の仕事をしようと考えていました。ものづくりと言っても過去の職場ではやりがいを感じなかったもので、自分にとってやりたいものづくりって何だろうと考えていました。このような時に育陶園の商品を見てカッコいいなと思いました。その後、偶然ハローワークで



企業で働く若手社員の方に、入社のキッカケや仕事のやりがい楽しさなどを聞きました。



おきなわ企業

WorkWork 訪問

Q2 お仕事の内容を教えてください

育陶園の体験教室の講師の求人を見て、やちむんを教えながら、学べるのは良いなと思いました。陶芸はやったことではないけれど、ものづくりが好きなので、今までのものづくりの感覚で教えることができるんじゃないかな、やりたいという気持ちがあれば何でも吸収が早いんじゃないかなと思いました。そして、まずは体験教室に参加し、器作りのろくろ体験を行いました。

実は昔から回るものが好きで、ろくろをみたとき面白いと感じました。ここなら「丸いもの」「ものづくりが好き」と自分の中でやりたいものが揃っており、技術も習得できて楽しめるという仕事のイメージにすっぽりとはまり、ここで働きたいと思いました。

一日の流れとしては、出社後に掃除、ミーティングで一日の予定を確認して、朝十時からお客様の対応を行います。一日で大体四組ぐらいのお客様を対応します。

お客様対応では、シーサーづくり体験、手びねり体験（一キロの土を使って一枚の器をつくる）、絵付け体験、ろくろ体験があります。今はろくろ体験以外の三つを教えてください。ろくろは勉強中です。ろくろは難易度が一番高く、ろくろを回しながら器を作るところが難しいです。赤土なので薄くつくと割れてしまうので、分厚く作って、一〜二日置いて削ります。削り過ぎると割れてしまうので加減が難しく、この部分を今練習中です。

—好きな仕事は？

お客様と作品を作ることが好きです。完成が近くなり、いよいよ完成した時に嬉しく感じます。自分の感性じゃない作品が仕上げられていくのを楽しんでいます。面白い作り方の作品を見ると、自分の中に活かせないかなと考えてしまいます。シーサー体験は一定の規格の中で作品を作っていくものではありますが、その人の個性が出て、同じものが出来ないところが面白い



陶芸教室のお客様の作品

—やりがいは？

お客様とコミュニケーションをとりながら、土を触って技術を習得できることです。

前の会社では、コロナ禍で喋る事ができない環境ということもありましたが、基本的に先輩の姿を見て覚えるという世界でした。それが自分にとっては苦しくて、楽しさが感じられませんでした。ここでは、シーサーづくりをお客様へ教えながら、「こんな形も作れますよ」と提案でき、その提案に「良いね」と反応が返ってくるのが嬉しいです。

また、周りの方がわからないことや新しいことを教えてください、やちむんの技術を学んで吸収できることが楽しいです。

Q3 会社の魅力をきかせてください

壺屋焼の商品を作り、販売するだけではなく、伝統の壺屋焼を体験できるということが魅力です。なかなか毎日、伝統工芸を体験できる場所はないし、それも自由なスタイル、生の土の状態から自分で作品を作っていくところの魅力だと思います。

Q4 今後の目標を教えてください

ろくろ体験を教えられるようになります。

体験教室ではろくろを使ってお茶碗やコップをつくるのができ、希望される方も結構多いです。

やちむん道場のスタッフの中では自分だけろくろを教えられないため、早く教えられるようになってスタッフ間の業務負担を均一にしたいと思っています。

今は仕事終わりに一人で練習したり、上司に指導してもらいながら何回も練習しており、土殺し※という作業を習得するのに一年ぐらいかかっています。その他の工程についても、お客様に指導できるように技術を学んでいます。県外のお客様は土を薄くしてしまう傾向があるので、赤土は薄くしすぎないようにしなければなりませんのでその加減を教えるのが難しいです。

今後は、機会があれば細かな作業が好きなので、シーサー製品をつくってみたいと思っています。シーサーだけでなく、ろくろで製

※3土殺し—土をろくろ台に置いたときに土が揺れないように中心をとる作業



企業で働く若手社員の方に、入社のキッカケや仕事のやりがい楽しさなどを聞きました。

品を作ってみたくとも思うし、壺屋焼について色々と深めたいと思っ
ています。

Q5 就活中の方にメッセージをお願いします

自分がやりたいものや好きなものを探して（例えば自分であれば
回るものが好き、こまかい作業が好き）家にいるだけでではなく、経
験してみることが大事です。ネットで調べるだけでなく自分で体験
することで、自分の好きな職種を見つける一つのきっかけになりま
す。気になるものを体験して、それが仕事としてやっていけるかを
自分の中で考えてみて、ダメだと思ったら次に体験してみるという
ことを繰り返ししていけば良いかなと思います。自分も携帯とにら
めっこしていたけど、自分の目でみてやってやる
ことが大きなきっかけになりました。体験し
たことで苦手なことや自分が良いと思うことが
わかり、新しい自分に気づくことができました。
体験する時は、自分自身にとって良い・悪い、
できる・できないをよく観察しながらやってみ
て欲しいと思います。



先輩社員にお話を伺いました

会社の魅力を教えてください（高安さん）

体験教室、販売（店舗）、製造（工房）、事務所（管理面）どの
部門も人が温かく、話しやすいと思います。ベテランの先輩は尊敬
するところがありつつ、フランクにコミュニケーションがとれるの
で、かしまっていているということはないです。色んな方がいて、部
門を越えて気さくに話すことができ連携がとれる環境だから、自分
の良い所をのびのびと発揮しやすいと思います。何歳だから、入社
何年だからと型にはまることなく、本人の能力や可能性によって今
後の目標を立てて進んでいくということが適う環境だと思っています。

どのようなキャリアアップができますか？

通常のキャリアアップであれば、部門の中でリーダー的になってい
くことを想像すると思いますが、組織的なキャリアアップではなく、
個人的な技術を上げていくということになります。陶芸教室であれ

ばお客様へ教えられる内容が増えていく、製造であれば作れる製品
の種類が多くなっていくことです。ただ本人が仕事をやる中で、や
りたいことが変わればその意向を尊重するようにしています。
他の工房さんの中には技術力がついたら独立を促す場合もありま
すが、育陶園では独立ではなく、会社に残って力を発揮してくれる
とありがたいと考えています。

独立する方としない方の違いは？ 貴社で働く方の人数が多い理由は？

自分で作ったもので生計を立てたいと考える場合は、修行後に独
立が多いと思います。

工房によって考え方の違いはありますが、工房側としても、代々
工房を子に譲っていく方もいるので、ずっと同じお弟子さんを抱え
ているというよりは技術を身につけたら独立してもらおうという流れ
になっているかもしれません。

育陶園は元々家族や親せきなどの近親者で行っていました。その
ような中で、陶芸体験を希望されるお客様が多いことで、体験を行
える場所を工房と別に構え、商品の販売店舗も徐々に拡大しそれに
応じて人手が必要になりました。また、外部から焼き物をやりたい
という方を受け入れていったため職人も増えていきました。今いる
職人さんで30〜40年勤務されている方もいます。

沖縄では個人や家族で少人数の工房を持たれる方が多い中、当社
のように体験教室、製造、販売などを行い、ある程度の従業員数を
抱える企業は多くないように思います。

どのような人が向いていますか？

工房では、チームとして働いている職人さんが多いので、技術も
大事ですが、お互いに話し合いができることが必要となります。そ
れぞれの製造に関する知識背景が違う（陶芸学校を出ていたり、陶
芸ではないが美術関係だったという方、そうでない初めての方な
ど）ので、人それぞれの考えを受け止めて面白がる、受け入れて
自分の技術にしよう、新しいものを吸収して
前に進むという気持ちを持つことが大事
だと思っています。また、同じ規格で製品を作る
ので淡々と練習していくことが好きな方、
黙々と作業を進めていくことが好きな方が向
いています。





INTERVIEW

企業で働く若手社員の方に、入社のキッカケや仕事のやりがい楽しさなどを聞きました。

陶芸教室では、毎週通って来られる生徒の方もいます。そのような方にも技術指導をできるように自身をアップグレードしていくことや、お客様から突発的に求められることに対して、臨機応変に対応していく力が必要となります。色んなことを楽しめる方は向いていると思います。

工房も教室もエアコンを入れられないので、オフィスの環境とは違います。体を動かす機会も多いので、それを楽しめる方がいいかなと思います。色んな人がいてチームワークがあって仕事回っているのも、実際に見たり、体験したりすることでまず自分に合うかみてもらいたいです。入社後に入社前には想像していなかったことが起こることもあると思いますが、それを越えて成長してもらえたら良いと思います。

《編集後記》

取材にご協力いただきました、成尾さん、富山さん、高安さん、また、有限会社青陶園の皆さまありがとうございます。

伝統工芸の世界は後継者不足と言われています。技術が必要とされるため、一歩踏み出すことを求められる方もいらっしゃるかもしれません。

今回の取材を通して、技術力の有無にかかわらず挑戦できる仕事であること、また自分なりの作品を作りたい方、そうではなく、一定の規格に合わせて製品を作りたい方など、ご自身の力に合わせて進むことができる、選択の幅があるお仕事であると感じました。

この取材記事を読んでくださった皆さまの、仕事への興味関心がより一歩進みましたら幸いです。



Okinawaken Career Center

沖縄県キャリアセンター